

製材品価格が急騰しウッドショック発生

主事研究員 安藤範親

1 ウッドショックが発生

製材品の価格が急騰している。2020年3月に1㎡あたり66,700円(全国平均価格)だったスギ正角(乾燥材)は、同年5月に86,600円へと30%上昇、68,100円だったスギ間柱(乾燥材)は、90,000円へと32%上昇した。わずか2か月の間で価格が3割超上昇した状況から、需給のひっ迫によって木材価格が急騰するウッドショックが発生したと言われている。その結果、住宅価格の上昇といった住宅市場への影響も懸念されている。

このようなウッドショックは、過去にも2度起きている。第1次ウッドショックは供給の減少によるものであり、1992年～93年頃にマレーシアでの伐採規制や北米での環境規制による伐採量減少などの影響で発生した。針葉樹の繊維板(MDF)など代替製品の利用が進んだことに加えて、北欧の製材品へと需要がシフトしたことなどから需給の不均衡は解消された。

第2次ウッドショックは需要の増加によるものであり、2006年～07年頃に中国や米国を中心とした世界市場における木材需要量の大幅な伸びにより発生した。その後、米国サブプライム住宅ローンの破綻を起因とする世界同時不況で木材需要量が減少し沈静化した。

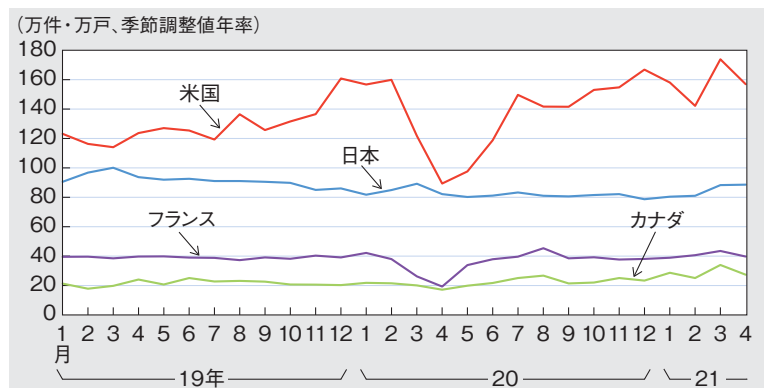
今回でウッドショックは第3次となるが、その要因は何であろうか。また、製材品の供給に何が起きているのだろうか。

2 米国住宅ブームが主な要因

価格急騰は、需給のひっ迫が要因であるが、日本国内の住宅需要が急増したり、製材品の生産が急減したわけではない。主な要因は今回も海外にある。第1図のとおり、米国の住宅着工件数はコロナ禍以前から低金利を背景に増加傾向にあったが、感染拡大による郊外への住み替え需要で20年夏以降一段と増加した。この住宅ブームに製材品の供給が追い付かなくなったことが、価格上昇の主な要因である。

米国における製材品の供給は、同国内での生産と隣国カナダからの輸入が主である。同国内における製材品の生産量は、コロナ禍で大幅に減少した後、20年末には以前の水準にまで回復した。しかし、労働力不足が問題となりそれ以上の需要量の増加に応えることはできなかった。また、製材品輸入量の8割半ばを占めるカナダからの輸入は、森林の自然災害(虫害や火災)による供給制限のため拡大しなかった。そのため、欧州からの輸入を拡

第1図 住宅着工件数(戸数)の国際比較



資料 Refinitive Eikon
 (注) フランスのみ月次の原数値発表のため、X-13ARIMA-SEATSで季節調整を実施し年率換算。米国、フランス、カナダは件数。日本は戸数。

大させたものの、世界各国のロックダウンに伴うコンテナ不足の影響で輸入の拡大は十分でなく、需要を満たすまでには至らなかった。

3 輸入減少が価格急騰要因か

日本国内の住宅着工戸数は、20年に81万5千戸と前年比1割弱ほど減少した。一方で、第2図により、製材品の輸入数量指数の推移をみると、20年前半は前年同期比1割弱の減少と住宅着工戸数の減少幅に合わせるように推移したものの、後半は同2割強の減少と住宅着工戸数の減少幅を一段と上回った。米国の需要量の増加やコンテナ不足を受けて輸入が減少したと考えられるが、その後回復しなかったために、日本国内では、21年3月ごろから輸入材が品薄となり、急きょ住宅メーカーは必要量を国産材へと切り替える動きが発生した。

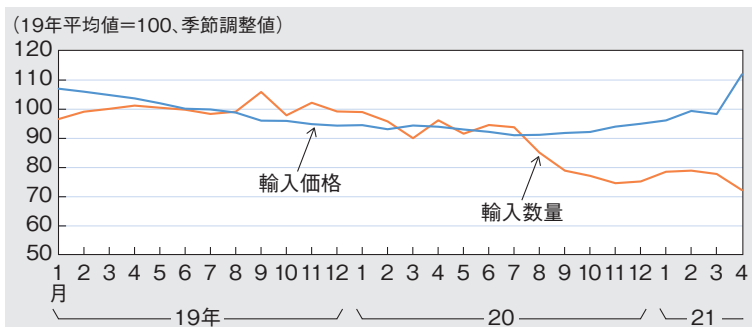
その結果、国内製材工場の出荷数量指数は(第3図)、20年後半から21年2月まで前期比1割減で推移していたが、3月以降は19年10月の消費税増税前の水準にまで急回復した。それでも日本の住宅用木材は、横架材で8割半ば、柱材で6割弱と輸入材の占める割合が高く、短期間では輸入材不足を国産材により十分補うことができず、国産材の価格が高騰した。

4 供給は年後半から徐々に安定

今後の見通しは、米国の労働力不足の解消

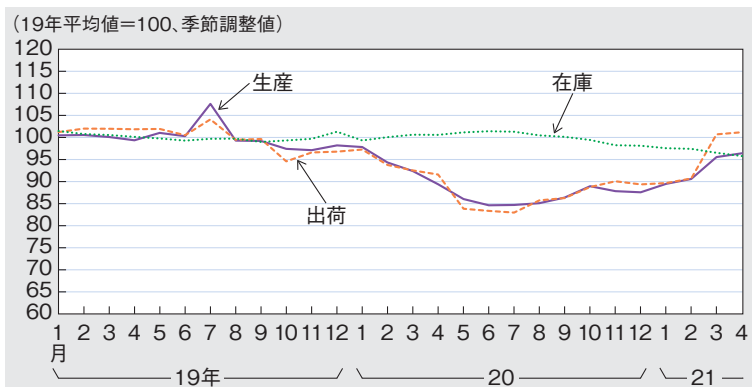
(注)一般社団法人日本木造住宅産業協会「木造軸組工法住宅における国産材利用の実態調査報告書(第5回)(2019)」による。

第2図 日本の製材品の輸入「数量」「価格」指数の推移



資料 財務省「貿易統計」、ITC calculations based on Japanese Ministry of Finance statistics より作成
(注) 季節調整値は、X-13ARIMA-SEATS。

第3図 日本の製材の「生産」「出荷」「在庫」指数の推移



資料 農林水産省「木材統計調査」より作成
(注) 季節調整値は、X-13ARIMA-SEATS。

による同国内の生産拡大、コンテナ不足の解消、日本国内の生産拡大などにより21年後半から徐々に供給が安定し始めると見込まれる。ただし、新型コロナウイルスの影響で世界的に住宅市場は活性化し始めており、日本の輸入量と輸入価格がウッドショック前の水準にまで戻ることは当面見込みがたい。

一方で、今回のウッドショックは、木材利用を輸入材から国産材へと切り替える絶好の機会となった。日本の住宅市場は、人口減少で縮小すると予測されており、それとともに国産材需要の減少が懸念されていた。これを機に国産材のシェアを拡大させることができれば、見込まれていた国産材需要の減少に一定程度歯止めをかけることが可能となるだろう。

(あんど う のりちか)